

2024年12月15日発行

No.56

早稲田大学本庄高等学院通信

緑風

書：3G 井上 桜依良（書道部）

発行：早稲田大学本庄高等学院 発行人：半田 亨 〒367-0032 埼玉県本庄市栗崎239-3 ☎0495-21-2400 <https://www.waseda.jp/school/honjo/>

路地と大通り

早稲田大学本庄高等学院 学院長 半田 亨

10月に本校を訪問した
タイの先生と川越で

かかりつけの医者に、運動不足解消のために30分程度の散歩をするように指導を受けました。学院長になる前はほとんど毎日生徒と一緒に硬式テニス部の練習をしていて、運動不足を気にすることはありませんでした。学校にいる間に暇を見て緑の中を散歩するのは理想ですが、授業や雑務はなかなかそれを許してくれそうにもありません。日常生活を検討した時、帰宅してから夕食の前に実行するしか選択肢はないと思いましたが、自分の性格からしていずれ三日坊主で終わることは目に見えています。カミさんをお願いして一緒に散歩してもらうことにしました。出張で遅くなった時と雨天の時以外は、今の所なんとか毎日継続できています。

私の自宅は本庄市内の高崎線の脇にあります。散歩コースは毎回気まぐれですが、高崎線の南側よりも北側の方が古い建物が多くて風情があるため、多くの場合、旧中山道と国道17号の間の路地を歩き、30分〜40分を目処に帰宅しています。

路地歩きをしていてわかったことは、40年近くこの街に住んでいながら、こんなに今まで歩いたことのない通りがあったことを知らなかったことです。私は、高校まで秋田の田園地帯で育ちました。そこでは田んぼや畑の畦（あぜ）道はあっても路地という道は基本的にありません。恐らく、自分の住んでいた村の道はほとんど知っていたと思います。本庄市内で過ごした年月は秋田のその2倍以上長いにも関わらず、市内の道の大部分を知らなかったことに気づきました。

学校から帰宅してから歩くので、ほとんどの場合夜遅くですが、全く知らなかった小さな飲み屋さん、古い庚申塚、家庭のイルミネーションなど、小さな興味を惹かれることが頻繁です。愛を語り合う制服の高校生カップルを見て、高校教師として指導した方がいいのか？と思うこともあります（もちろん、そんなヤボなことはしません）。昼と異なる表情を見せる建物もあります。休日のまだ

明るいうちに同じ道を歩くと、庭に綺麗な花が植っていたことに驚かされることもあります。この原稿を書いている今の季節は、夜に各町内の公民館で子供たちが集まって11月に開催される本庄祭のお囃子の練習をしています。チンドンシャボンとあちこちから聞こえる音に季節の風情を感じます。

お店や大きな建物がたくさんあり街路樹で整備された大通りはその街の顔として大事ですが、路地には大通りにない趣や発見があります。しかし、目的の地に到着するには少し（大きく）、遠回りになります。そんな路地を歩いていると、人生も似たようなものだと思えてきます。目的地へ大通りだけを歩いて最短で到着できる人は稀でしょう。ほとんどの人は自分から望まないのに路地に迷い込み遠回りします。ひょっとしたら、迷い込んだ路地を行き来するうちに目的地とは全く異なる場所に行ってしまうかもしれません。しかし、路地を歩いている間に得た趣や印象、知らない人との短い交流は大通りだけを歩いた人にはない経験です。知らないうちに確かに、私たちの人間性を深めることに寄与しています。

本庄学院は首都圏から遠く、交通の便はお世辞にもいいとはいえません。しかし、キャンパス内を毎日歩いていると、四季の草花や鳥の鳴き声があなただけに届いてくれます。それは首都圏の学校にはない経験です。皆さんが知らないうちに、確かに、あなたの人間性を深めることに寄与しています。

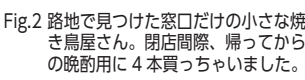
Fig.1 ライトアップされた旧本庄警察署。
門灯などとは異なる趣があります。

Fig.2 路地で見つけた窓だけの小さな焼き鳥屋さん。閉店間際、帰ってきたの晩酌用に4本買っちゃいました。



囃み締めよ。非日常。

稲穂祭実行委員長 3年B組 今泉 詩音



私たちが稲穂祭実行委員会が初めて顔を合わせたのは、4月18日のことです。この委員会に参加しなければ、出会うことはなかったかもしれない48人の実行委員は、お互いに連携を取り合い、話し合いを重ね、2日間の稲穂祭を成功させるために、半年以上にわたる努力を続けてきました。

今年の稲穂祭のスローガンは「囃み締めよ。非日常」。このスローガンには「稲穂祭」という学生生活にとっての非日常なひとときを、ただ過ぎていくだけの時間にしたくない」という思いが込められています。このスローガンを軸に、今年の稲穂祭では新たな試みにも挑戦しました。少しだけ裏方の仕事について紹介させていただきます。

まずは、美術作品の制作。今年は「宇宙」という美術テーマに基づき、新たに天体のオブジェを作成しました。8つの立方体の発泡スチロールを削って球体にするという作業は、教室中に発泡スチロールの粉を舞わせる大変なものでした。掃除機で吸い、掃除機が詰まり、歩くと粉が床に広がるのは白い粉——この状況に、一体何人の実行委員が発泡スチロールを恨んだことでしょう。それでも色付けや吊り下げ作業を終え、美しい天体が完成しました。これも、実行委員会全員の努力と、塚越先生の、新井先生をはじめとする先生方の多大なご協力のおかげです。本当にありがとうございます。

また、新たに稲穂祭のPV制作にも取り組みました。一度は方向性の違いから立ち消えになったこのプロジェクトでしたが、「どうしても作曲したい」という1人の学院生の熱い思いから再始動。映画部の協力を得て制作したPVは、私たちの無理難題に比べ、期待を遥かに上回る形で仕上げた非常に完成度の高いものとなりました。「学院生なのにPV見えないというじゃ無理か。PVはね、見とけない」と。まだ見たことない学院生は、ぜひ公式インスタでチェックしてみてください！

そして、忘れてはいけないのはステージ企画です。イベントパトリリーダーを中心に、学院生が盛り上がる場を全力で作りました。雨の中での中夜祭。びしょ濡れになることも気にせず、

ず、全員が軽音部の発表で跳びはねる姿は、伝説となつて語り継がれることでしょう。そして晴天に恵まれた後夜祭。ステージ上から見た、全力で「非日常」を楽しむ学院生の姿は、私にとって一生忘れることのできない宝物です。



みなさんにとって、稲穂祭とはどのような日だったでしょうか。日頃の練習の成果を発揮する日、気になるあのひとと写真撮ろうと勇気を出した日、テストや課題、卒論を忘れて思いっきりはしゃぐ日。それぞれが稲穂祭に抱いた思いは異なるかもしれませんが、しかし、共通して言えるのは、普段接点のない他学年の生徒たちが、異なる目標を持って集まっている学院生が、この期間だけは同じ方向を向き、1つの大きな家族のように団結していたということです。

稲穂祭は、過去42回の伝統と学院生の個性・情熱・創造力が詰まった、早本を象徴する行事です。特に後夜祭での早本特有の縦揺れ「紺碧の空」は、先輩方から受け継いできた早本ならではの伝統であり、この先も失われることはないでしょう。少しでも多くの学院生が、それぞれが思い描いた形で「非日常」を噛み締めることができているのなら、実行委員長としてこれ以上に嬉しいことはありません。

最後になりますが、こちらの不手際で迷惑をおかけした部分もあったと思います。それでも多くの方のご支援、ご協力のおかげで、この稲穂祭を無事に終えることができました。織部先生、塚越先生をはじめ、期待を遥かに上回る形で仕上げた非常に完成度の高いものとなりました。「学院生なのにPV見えないというじゃ無理か。PVはね、見とけない」と。まだ見たことない学院生は、ぜひ公式インスタでチェックしてみてください！

そして、忘れてはいけないのはステージ企画です。イベントパトリリーダーを中心に、学院生が盛り上がる場を全力で作りました。雨の中での中夜祭。びしょ濡れになることも気にせず、



ど離れたところでも、新しい家の建築が始まった。擁壁を作り盛り土をして整地し終えたと思ったら、ひと月後には上棟式となった。それから、大工さんがひとり作業をしている。たまに屋根を運ぶのを手伝ってもらっているようだ。夏休みのある日、急に雨が降ってきた。慌ててブルーシートで窓を覆う姿をみて、家を飛び出しお手伝いをした。ひと段落したところでコーヒーを飲みながら大工仕事の話を聞かせていただいた。すると、本職は宮大工で神社仏閣の仕事が主で、この世界に入ったことである。師匠にきっちり仕事を教わり、あの伊香保神社の手水舎（ちようずしや・神社やお寺で参拝をするとき、柄杓（ひしやく）で水をすくって身と心を清める場所）をひとりで建てたというのである。作業場に籠り、100年後にも残っているようなしつかりとしたものを作ったのだそうだ。



ある時テレビをつけたところ、鉄腕ダッシュに目が留まった。伊香保温泉街を貫く365段の石段の一番上から一番下までそうめん流しをするという内容である。もしかすると手水舎が映るかもしれないと大きな期待をもって番組をみていると予想通り、あの手水舎が一瞬映った。普段何気なく見ていた建物であるが作った人を知ったと親近感が湧いてくる。そしてなんとだか誇らしい気持ちになり、「この手水舎は知り合いが作ったんだよ。」と誰かに話したくなった。

昨年の伊香保温泉宿泊者数は27,000人を超えた。日帰りのお客さんも相当数いる。これまでにこの神社でお参りをした人数はいったい何人くらいになるのだろうか。あの大工さんが作った手水舎は、今日もきれいな水で参拝者の身と心を清めている。

修学旅行を振り返って

コリアンソウル！

韓国コース実行委員長

3年B組 富永 知紗子

修学旅行の思い出と言われて一番初めに思い出すことは何でしょうか。長いようで短かった修学旅行、こうして今思い返してみると懐かしくて、でも少し切なくて、もう戻れないあの五日間に様々な感情が押し寄せます。

私が最初に思い出すのは三日目に乗った漢江のクルーズ船です。その日は非常に寒く、特に船の上ということで冷たい風が肌に触れていました。しかし、夜空に輝くソウルの街、穏やかな波の流れを五感で感じようと船のデッキにはたくさんの学院生が押し寄せていました。最後の方は冷たい風に吹かれた前髪がぐちゃぐちゃになってしまいましたが、ビルの窓から覗く光が漢江の水面だけでなく、私たちの心も照らし、暖めてくれました。

特別なひととき

台湾コース実行委員長

3年E組 雑賀 紗友

修学旅行から1ヶ月以上が経ちましたが、今振り返ってみると、本庄での日常から離れ、台湾という地で過ごした特別な5日間は、高校生活最高の思い出になったと感じています。修学旅行で海外に行けること自体が、非常に豪華でありがたいことですし、その中で多くの貴重な経験することが出来ました。連日バスでの移動が続きましたが、添乗員の方が流暢な日本語で面白い話を沢山してくださり、常にバス車内を盛り上げてくださいました。また、期間中天候に恵まれないこともありましたが、雨の中でも九份での散策や十分での天燈上げなどを無事行うことが出来ました。

個人的に印象に残っているイベントは、3日目の台中一中との交流です。台中一中に到着すると、生徒が私たちを暖かく出迎えてくださり、お互いが用意してきたパフォーマンスを楽しみ、クラブ

二日目に訪れた統一展望台や戦争記念館では韓国の歴史を感じることができました。展望台から見た北朝鮮は私たちがいた韓国とは違う、なんとも言い難い雰囲気が漂っていました。かつて同じ歴史を刻んできた朝鮮が一つの戦争によって分断されてしまったことへの悲憤を感じました。特に印象に残っているのはバスガイドさんがおっしゃった「韓国に生まれてよかった」という言葉です。韓国や日本のような恵まれた国に生まれたことは決して当たり前のことではないことを改めて実感しました。自分を取り囲む環境への感謝を彷彿とさせる言葉でした。

海外への修学旅行は



ナウイリスの影響で数年ぶりに叶ったものでした。今回の旅ができたことは決して当たり前前のことではなく、様々な人々の協力があったからこそできたものです。この旅を支えてくださった方々への感謝、そして、この修学旅行で感じた温かさ、友達との絆、かけがえない思い出を忘れないようにしたいと思います。いつかこの修学旅行の記憶がふとした瞬間に思い出され、自然と笑みがこぼれる、そんな日が来ることを願っています。



活動や授業と一緒に体験しました。会話は基本的に英語でしたが、多くの生徒が英語を流暢に話していて驚きました。授業が終わると、学校周辺をベアの子が案内してくれましたが、近くにコンビニや飲食店がとて多く、そのような都会に学校があることを羨ましく思いました。他の日は、台北101や故宮博物館に足を運んだり、7時間という長い自主研修では各班がそれぞれ充実した時間を過ごしました。

海外での5日間ということで、慣れないこともありましたが、英語で注文してみたり、中国語で挨拶をしてみたりと、友人と楽しみながら小さな挑戦を何回も重ねました。

九份での美しい風景、十分での天燈上



第1学年 学年行事について

1年C組 山本 翔大



先日、第1学年の学年行事で新宿の末廣亭に行き、寄席を楽しんできました。

寄席と聞くと、少し退屈そうだと思う方もいらっしゃるかもしれませんが。実を言うと、僕も終わったら友達と何して遊ぶかな？なんてことばかり考えていて、寄席自体にはあまり興味が湧いていませんでした。ところが、そんな期待は良い意味で裏切られました。その日の寄席では、落語や紙切り芸などもありましたが、特に心に残った「曲独楽」について綴りたいと思います。

曲独楽は、日本の伝統芸能の一つで、大きな異なる独楽を使つてさまざまな曲芸を披露するものです。寄席が始まると、すぐに曲独楽の演目が始まりました。扇子の紙の上や日本刀の切っ先といった信じられない場所で独楽を回す芸人の姿に、思わず心が躍り、自然と拍手がこぼれました。

そして、盛り上がりつつあったタイミングで、芸人さんが「次の芸には協力者が必要で、誰か手伝ってくれませんか？」と客席に問いかけました。僕はすぐに手を挙げました。もともと近くで芸を見ることのできるなんて、こんなチャンスは滅多にないと思ったからです。

芸は「となりのトトロ」のワンシーン、トトロが独楽に乗って飛んでいく場面を再現するものでした。僕の役目は、その独楽が乗る紐をピンと張り、片方をしっかりと支えること。「しっかり押さえてね！」と芸人さんに念を押され、手に力が入りました。やがて芸人さんが独楽を紐の上で回し始め、トトロのぬいぐるみ

がその上に乗りました！トトロが独楽の上でくると回転しながら紐の上を滑り、僕の方へと近づいてきます。そして、トトロが無事に紐を渡り終えた瞬間、客席からは大きな拍手が湧き起こりました。

球技大会

球技大会委員長 2年A組 原 咲太郎

天候にも恵まれ、絶好のスポーツ日和の中、今年の球技大会は全種目において参加者全員の熱意と努力のおかげで大成を取ることが出来ました。みなさん、どうもありがとうございました！また、球技大会開催に際し準備や審判などご協力いただいたサッカー部、野球部、バレー部の皆さん、先生方や保護者の方々、本当にありがとうございました！

今年から、生徒から多くの要望があったため、前年までのドッチビーから新競技のドッチボールに変更しました。実行委員で集まってシミュレーションを行い全てのルールを自ら考えました。予想以上の盛況で、実行委員一同、とても嬉しかったです。

私の競技したサッカーはまさに白熱の戦いで、グラウンドはまさに戦場そのものでした。いつもおらかな生徒も、この日限りは目がギラギラしていて、「勝利の美味しさ」を味わうために全力を出している様子が伺えました。とてもよかったことです。しかし、私が最も刺激を受けた場面はプレー外の出来事です。

た。それはファウルをした際にしっかりと謝り、相手にリスペクトを持っていたという場面でした。スポーツマンシップを持っている学院生らしい律儀な姿勢に私は目を奪われてしまいました。私はこの球技大会を通して、スポーツの偉大さを認識することができました。スポーツで交流の機会を増やし、より一っ所高校生活を共に過ごす仲間との関係を深く築くことができた良いなと思いました。

体育祭では、今回の球技大会で得た知識を活かして周りを引っ張ってけるような声掛け、リーダーシップを取れるように自分自身を精進していきたいです。



芸術鑑賞会

生徒担当教務副主任
織部 玲児 先生

公演からひと月あまりが経った今でも、あの感動が忘れられずにいる。今年度の芸術鑑賞会の演目は「中国雲能維技」だったが、同じ思いを抱いている学院生や教職員も多いのではないだろうか。最後の「椅子倒立」完成の瞬間は誰もが固唾を呑んで見守ったことだろうし、成功後の歓声や万雷の拍手が鳴り響く様子はまさに壮観だった。

公演時間の90分は一日においてはそれなりの長さだが、週、月、年、さらには人生全体を基準に考えれば、ほんの一瞬でしかない。それでも、その一瞬を言葉では言い尽くせないほどの感動で満たし、忘れられない記憶として刻んでいただいた雑技団の皆様への感謝を贈りたい。

どれもが凄すぎて、成功するのが当たり前だと勘違いしてしまいがちだが、本公演の謳い文句は「1分間の演技に10年の鍛錬」である。公演後にすれ違った先生皆が開口一番「あのレベルに達するまでにどれだけの時間を…」と仰っていた。

活躍するOB・OG

東海旅客鉄道株式会社 総合技術本部技術開発部
車両制御チームフレキシブル制御グループリーダー
小林 学 志

早稲田大学本庄高等学院5期生の小林学志と申します。在学時の担任が現学院長の半田先生ということもあってか、OB・OG紹介の記事に掲載下さる旨、半田学院長より直接ご連絡いただき、寄稿を快諾した次第です。

子供の時分より科学や技術に興味を持ち、学院入学後は理工学部への進学に向けて迷いはありませんでした。大学は、理論よりも「ものづくり」に近い工学を選択し、理工学部機械工学科（現在、名称は変わってしまいましたが）に進学しました。ただ、当時の社会人になったからのイメージは、今思えば漠然としたものでした。

大学を4年で卒業後、平成5年に東海旅客鉄道（JR東海）に入社しました。折角の機会ですので、自らの業務経験について紹介したいと思っています。入社後は一通りの研修を受けて、新幹線の設計を行う部署に入りました。それ以降、主に新幹線の車両の設計部門と、将来の車両に向けた技術を開発する部門を中心に、技術者としての経験を積み上げていくことになります。鉄道という技



術分野は、土木、送電電、信号、車両……などなど、様々な技術領域からなる総合芸術のようなものです。私は車両という括りの中で、フレキシブルを中心とする技術に携わってきました。

この「フレキシブル」としての仕事の中、大地震で他社の新幹線が脱線したという事実が衝撃を受けました。新潟県中越地震、東日本大震災、熊本地震、福島県沖地震……自分の使命を深く考えるのは充分過ぎる動機付けです。今、地震の発生時に高速で走行する新幹線を速やかに止めるべく、研究開発を行っています。十数年の間に、様々な新技術を用いたフレキシブルの仕組みを作り、停止までの距離を三割程度短縮してきました。令和4年に、私のグループが中心となって開発したフレキシブル総合試験装置が小牧研究施設内に完成して、より本質的な世界が見えてきました。写真はその試験装置をバックに撮ったものです。テレビや新聞で何度か紹介されたので、ご存じの方がいたら嬉しい限りです。

さて、私の専門技術の中に「粘着」という分野があります。英語で adhesion。車輪とレールの間の接触や、その接触により力を伝達するメカニズムを表す専門用語です。社会に出ると、業種に固有の技術領域、専門分野に出会います。他業種の学術誌や論文などを見ても、実に興味深いものです。こうした技術に十年という単位で関わっていると、知見も積み重なり、その世界において成し遂げるべ

将棋部全国大会優勝報告

「第48回全国高等学校総合文化祭」
将棋部門に出場して
1年E組 横村 日和

私は、囲碁将棋部に所属しています。この夏、岐阜県高山市で開催された第48回全国高等学校総合文化祭の将棋部門に、埼玉県代表として、囲碁将棋部の3年生の先輩と一緒に出場しました。全国高等学校総合文化祭は、全国の高校生による芸術文化活動の祭典で、文化部のインターハイと言われると思います。そのような大会に出場でき、大変光栄に思います。

私が将棋を始めたのは、小学1年生の時です。中学校は将棋部がなかったため、将棋部がある高校に進学したいと思っていました。地元群馬県の高崎高校に、本校の囲碁将棋部に所属していたことをきっかけに、本校の囲碁将棋部が伝統的な強豪校であることを知り、中学生の時から私も入部したいと思っていました。本校の囲碁将棋部に入部することができ、ひとつ夢が叶いました。

き目標が出てきます。腰を落着けて技術を極めたいのです。タイプ、という言葉があります。このタイプ、技術を目指す人が本気で使っていたとしたら、一度、時間軸に気を付けて考えてみると良いでしょう。効率的に物事を進めることは大事です。ただ、長いスパンで成し遂げる目標に対して、自ら獲得する学びの時間を切り捨ててしまふことにならないか。私は、技術を志して得たのは、常に新しいことに触れる喜びだと感じています。

仕事ができることなら楽しくやりたいです。『論語』の雍也第六に「知之者不如好之者、好之者不如樂之者」という一節があります。之を知る者は之を好む者に如かず、之を好む者は、之を楽しむ者に如かず。そこに興味を持てる何かを見つければ（之を楽しむ者）の技術屋かも知れません。

この8月に同窓会がありました。皆、貫禄が増したとはいえ、変わらない姿に安心しました。こうした友人たちの影響を受けて、自分は成長できたのだと思います。良い校風が良い友人を生み、自分の成長の糧になる——是非、良い学院生活を送ってください。



留学生の紹介



こんにちは。私はアジア架橋プロジェクトを通してタイのプーケットから来た サローチャー コムサンです。8月に日本に到着し、約2週間はホームステイ先にお世話になり、9月からは寮に滞在しながら3ヶ月半こちらの早稲田大学本庄高等学院に通いました。稲穂祭や落語、芸術鑑賞教室など様々な行事を通して日本の文化を学び、充実した学生生活を送る事が出来ました。部活では日本の文化が学べる日本らしい部活に入りたいと思い、茶道部に入部し、お茶のたて方や着付けなど様々なマナーを学び、日本の伝統の奥深さに触れる事が出来ました。8月の暑い夏の時期に来日し、タイにはない秋、冬と日本の季節の移り変わりも経験し、本当に4ヶ月間はあっという間でした。出発前までは日本での高校生活がとても楽しみでもあり、又学校、クラスに上手く馴染めるか、初めての寮生活は大丈夫かなと色々な不安もありましたが、先生方をはじめ、クラスや部活、パティの皆さん、寮母さん達がとても暖かく迎えてくれて、又寮生活が始まってからホストファミリーは常に私のサポートをしてくれて楽しく素晴らしい有意義な留学生生活を送る事が出来ました。タイに戻ったら日本での素晴らしい体験や文化をタイの人達にも伝えていきたいと思っています。皆さんのお陰で早稲田大学本庄高等学院での留学生生活は宝物となる一生の思い出となりました。本当にどうもありがとうございました。



こんにちは！韓国から来た留学生、張允瑞（チャン ユンソ）と申します。現在、AFS Kakehashi+ プログラムの留学生として早稲田大学本庄高等学院で学んでいます。私が留学を決心したきっかけは、自身を成長させたいと思ったからです。韓国で高校1年生として生活していた頃、「このままでは本当に良いのかな？」と悩み続けました。他人とは違う生き方をしたいと言いつつ、挑戦することを恐れ、大学進学だけを指す、与えられた道を進む、ただ漠然とした夢だけを見る無責任な夢想家だったんです。そんな中、留学プログラムの存在を知り、初めて未知の世界へ一歩を踏み出す決心をしました。この挑戦は私の人生において最も成功した選択の一つであったと自信を持って言えます。特に、早稲田大学本庄高等学院での留学生活で成長という特別な機会を得ることができました！例えば、茶道部の活動を通じて、日本の伝統的な茶道の作法や精神を学んだり、着物を着て茶道を体験した時間は、日本の伝統文化を深く感じる事が出来ました。このような体験は、異文化を理解する力を高める大きな基盤となりました。そして、小学校で英語で授業を行うボランティア活動に参加し、英語に対して苦手意識があった英語を使う場面を非常に負担に感じていた私が、このボランティア活動を通じて英語への恐怖心を克服することができただけでなく、子どもたちと交流して学ぶという貴重な経験で、私は分かち合いと交流の価値を実感し、自分が得た学びを再び他者に還元する喜びを感じる事が出来ました。これらすべての経験を通じて、私は世界をより広く多角的に見る力を養う大きな助けとなり、挑戦を恐れず自信を得ることができて将来に向けた目標を明確に築く事が出来ました。短い時間でしたが、このような貴重な経験を可能にくださった先生方、友人たち、そして温かく迎え入れてくださった学校と地域社会の皆様から感謝いたします。これからもこの記憶を基に、さらに広い世界へと進んでいきたいと思っています！

全国高等学校総合文化祭ですが、将棋部門は、2日間に渡って行われました。初日は、予選と決勝トーナメント2回戦までが行われ、勝ち進むことができました。初日の夜は、先輩や他校の友達と将棋を指し、2日目の準備をしました。将棋の出場選手の中には、以前から大会などを通じて友達になった方が多くいました。先輩や友達と将棋を指した時間は、とても楽しい思い出となりました。2日目は、準々決勝から始まりました。厳しい対局もありましたが、何とか勝つことができました。優勝することができました。高校での目標のひとつが、全国大会で優勝することだったので、夢がもうひとつ叶い、とても思い出深い大会となりました。私の将来の夢は、女流棋士になることです。これからの一層将棋の勉強に励み、夢を叶えたいと思います。最後に、この大会の出場にあたって支えていただいた、顧問の大塚未来先生をはじめとした先生方、囲碁将棋部の仲間など、周りの方々に感謝申し上げます。



魅力的な先生の紹介

#バトン#7

英語科・細 喜朗



「あなたに1つのエンゲージメントとは？」
授業中、時間が早く過ぎ去ったように感じることがある。私は現在、アメリカのデラウェア大学で授業観察の機会を得ている。ある日、AI教育に関する授業に生徒と共に参加し、私は教師の示唆に富んだ具体的な挿話を、学生同士の協働活動に積極的に関わった。気がつくとい授業はあっという間に過ぎ去っていった。この経験を通じて、私は当該授業に意義を見出し、没頭していたことを実感した。これは、教育における積極的な学習者の関与状態である「学習者エンゲージメント」によって説明ができる。ある研究者は、学習者エンゲージメントを「学習者が学校に関連する活動や学業的な課題に夢中で取り組む状態」と定義している。そして、モチベーションとエンゲージメントの違いを次のように説明している。モチベーションとは、「歌が上手になりたい」という願望から、「歌を練習しよう」という決意する状態を指す。一方、エンゲージメントは、歌の練習そのものに意義を見出し、夢中で取り組む状態を意味する。このように、エンゲージメントとモチベーションは相互に関係し合い、学びに没頭する動機と意欲を支え合っている。学習者エンゲージメントには、行動的、感情的、認知的の三つの要素がある。第一に、行動的エンゲージメントは、学習に対する積極的な姿勢や取り組み状態を指す。第二に、感情的エンゲージメントは、学びへの興味や情熱を抱いている状態である。第三に、認知的エンゲージメントは、課題解決のために深く思考する状態を指す。これらの三要素は、冒頭で私の体験した授業で効果的に取り入れられているのだと思う。勿論、興味や意欲が掻き立てられる度合いには個人差がある。しかし、エンゲージメントの向上は、自分の学びと授業への振り返りに役立つ指針の一つであるといえる。最後に、私は本稿を読んでもくれた方々のエンゲージメントが高まった体験についてぜひ知りたいと思っています。では、バトンを次の先生に託したいと思います。地理歴史科の三枝亮也先生、どうぞよろしくお願いたします。

各種プログラム報告

課外講義「これがサイエンスだ!」

- ◆講義
- 第2回 5月27日(月)「L-function of CM elliptic curves and generalized hypergeometric functions」
数学科教諭 根本裕介
- 第3回 5月27日(月)「スターリング数であそぼ。」
数学科教諭 太田洋平
- 第4回 5月28日(火)「超ひも理論を学んでみよう」
早稲田佐賀中学校・高等学校 物理科教諭 富山翔平 氏
- 第5回 5月28日(火)「ベイズ統計に触れてみよう」
早稲田佐賀中学校・高等学校 数学科教諭 伊東智平 氏
- 第6回 6月14日(金)「海洋プラスチック問題を考える」
数学科教諭 矢島史仁
- 第7回 7月12日(金)「ウォリスの公式とその周辺の不思議な公式」数学科教諭 峰真如
- 第8回 10月15日(火)「量子もつれとは何か?」
学院生 逸見康介(監修・数学科教諭 峰真如)

今年度は早稲田佐賀高校の先生にも講義をしていただき、「交戦戦」を行いました。

◆夏合宿
2024年8月24日(土)から26日(月)にかけて夏合宿が行われました。

この合宿では、参加者が生物・数学・物理・卒論の4つのパートに分かれ3日間かけて探究活動を行いました。生物パート:「森林生態系における炭素循環」
理科非常勤講師 梅見知樹
数学パート:「ある分布にしたがって生成された多数のデータから、元の分布を推定すること」
数学科非常勤講師 新井康太
物理パート:「古墳の宇宙線による調査」
理科教諭 大塚未来

卒論パートでは、それぞれのテーマについて集中的に取り組みました。合宿には特別講義が実施され、数学科教諭矢島史仁先生から「ルビビックキューブであそぼ。」、数学科太田洋平先生から「モノイドの作用の圏からのモノイドの復元について」というタイトルでお話しいただきました。今回は参加者が40名を超え、たいへん熱気のあるものとなりました。詳細は学院HPをご覧ください(QRコードよりアクセス可能です)。



高校生・高専生科学技術チャレンジ

◆朝日新聞 JSEC (12月7, 8日)
科学未来館で実施される朝日新聞主催の科学技術コンテンツ「高校生・高専生科学技術チャレンジ」の最終審査会に出場が決まりました。
3年E組 長屋和樹さん
タイトル「和太鼓の内側の影」と音との関係性」

国際交流活動

◆韓国研修(7/17～7/20)
オンライン国際学術交流を継続していた韓国セロナム高校を3泊4日の日程で生徒10名・引率教員2名が訪問し、Korea-Japan International Youth Forumに参加しました。英語での研究発表やディスカッションのほか、フィールドワーク、エクスカーション、調理実習や文化交流までも含む充実した研修を行うことができました。

ホームステイを含め、4日間濃密な交流を行うことができ、参加した生徒たちにとっては貴重な体験となりました。来年7月にはセロナム高校の訪問団を招聘し、本学院で学術交流を行う計画です。

◆タイ研修(1月28日～2月4日)
1月28日(日)～2月4日(日)の間、姉妹校であるMahidd Wittayanusorn School (MWIT)との交流を中心とするタイ研修を実施しました。コロナ禍以降、両校の相互訪問交流は、昨年10月のMWIT生徒受け入れで再開されました。コロナ禍以降、久々のタイ研修となります。この中でMOUの調印をしました。参加生徒は2年野崎葵・藤田清花・金井彩良・新島優芽・柴山二海、3年西澤暎・角形綾・内藤千尋です。

◆台中一中とのMOU再締結(3月4日)
台湾台中市にある台中市立第一高級中学は、2005年以来主として修学旅行で相互交流を継続している姉妹校です。2005年にMOUを締結しましたが、台湾の学校制度の変更により2017年に台中市立になっていたため、今回、改めて学院長が3月4日に訪問し、再締結に至りました。

◆国際交流へのいざない(3月27日)
3月27日(水)19時～20時、オンラインでミニシンポジウム「国際交流へのいざない」を新人生に向けて開催しました。このイベントは、コロナ禍が始まった2020年に、対面の授業や行事がまわってできない状況を不安に思い(当時は、入学式もできず、特に1年生は同じクラスの友人が誰か知らないまま、5月からのオンライン授業に臨んでいた)、国際交流への芽を絶やさないために、オンラインで開催したことが始まりました。その後、毎年開催されているイベントになりました。毎年プログラムが異なっていますが、今年度は国際交流経験者生徒8名にお願いし、会のコーディネートをお任せしました。1名はNZへ短期留学中で、現地から参加しました。

◆台中一中修学旅行団の本院学院訪問(5月27日)
5月27日(月)、台湾の台中市立第一高級中学(台中一中)の修学旅行団50名、教員4名が本院学院を訪問しました。修学旅行団の団長として台中一中の林校長先生が来校しました。校長先生が本校の先生は初めてです。

◆Hana International Symposium (HAS)2024 (7月22日～7月26日)
7月22日～26日の間、学術交流提携校である韓国のHana Academy Seoulが主催する国際高校生シンポジウム15th International Symposium Sustainable Development (HAS)に7名の学院生(1年高橋文花、2年福居美緒・金井彩良・新島優芽、3年織田真帆・小瀬遙菜・山下凛花)が参加しました。コロナ禍以後ははじめてオンライン開催でしたが、5年ぶりの対面開催となりました。参加国5か国(韓国・日本・ブルガリア・タイ・中国)11校の参加です。

◆International Collaborative Research(ICR)2024台湾研修(7月29日～8月2日)
7月29日(月)～8月2日(金)の日程でInternational Collaborative Research (ICR)の台湾研修が実施されました。ICRはSSH校である立命館高校が主催するオンラインの国際高校生イベントです。共同研究による研究発表に的を絞っていることがその特徴です。昨々まではフルオンラインでしたが、今年度はオンラインに加え、連携校がタイ4校と台湾(高雄市)4校に分かれ、各校2名参加で対面での共同研究プログラムを実施することになりました。本院学院は2年野崎葵、森戸麻耶が参加し、高雄市立高雄高級中学との間で「水のしずく」をテーマに共同研究を行っています。高雄高級中学を訪問し、共同研究を進めました。

を共同で行います。
◆シンガポール研修(8月6日～8月12日)
毎年開催している、Singapore National Junior College (NJC)を訪問したシンガポール研修は、今年度8月6日～12日の日程で行いました。NJCとは2007年に姉妹校MOU締結後、コロナ禍をはさみ、毎年相互交流を継続しています。今年度は、10名の生徒(1年豊原琉生・松村颯大・西郡由莉・吉田瑠璃、2年樋口乃愛・三保谷愛生・豊田一夏・大塚麗、3年武田愛朋・有坂美春)がNJCを訪問しました。ちょうど、8月9日の独立記念日の式典を見ることもでき、ラッキーでした。



◆MWITの本院学院訪問
タイのMahidd Wittayanusorn School (MWIT)は本院学院の姉妹校であり、毎年10名の生徒の相互訪問をしています。今年度は10月14日(月)～20日(日)の日程で本院学院を訪問しました。パディは1月にMWITを訪問しお世話になった学院生が務めました。2025年1月末には、学院生がMWITを訪問します。今年度は世界最大の高校生科学シンポジウムInternational Student Science Fair (ISSF) 2025と重なります。学院生も得難い体験ができることと思います。

◆留学生の紹介
9月より台湾から呉英齊さん(サク)(2025年7月まで)、10月よりタイからSarocha Khomsanさん(シェナ)、韓国からJang Yunsuoさん(ユンソ) (二人とも2024年12月まで)が本校で学んでいます。写真(妙義山)は左からユンソ・サク・シェナです。



◆Japan Super Science Fair (JSSF) 2024参加
JSSFは立命館高校が主催する世界最大規模の高校生科学シンポジウムです。今年は11月2日～6日の日程で開催されましたが、稲穂祭の都合上、本院学院は4日～6日の日程で参加しました(3年内藤千尋、2年野崎葵・森戸麻耶)。

◆NJCの本院学院訪問
NJCの皆さん(生徒10名教員2名)が、11月8日(金)～14日(木)の日程で本院学院を訪問し、多くの生徒と交流を深めました。授業参加・歓迎お茶会その他、研究室等の訪問、遠足、小学校への出前授業を経験しました。

◆地域連携・貢献プログラム、企業連携プログラム

◆JAひびきのプログラム
JAひびきのとの連携活動として、本院学院のPRにつなげることを目標としています。これまで、JAひびきの皆様にご配慮で、8名の生徒が直売所訪問・梨狩り・さつまいも掘りを経験しました。

◆小学校プログラム
本院高等学院では地域貢献プログラムとして本院プロジェクト推進室・本市教育委員会協力の下、学院生が市内小学校に出前授業をしています。国際交流授業と総合学習支援授業に分かれます。今年度も多くの小学校で国際交流支援授業、科学未来館教室、チアダンス教室など総合学習支援授業を行いました。

◆市民総合大学講座・こども大学本院
市民総合大学は、本市が市民の生涯教育を目的として開催しているプログラムです。こども大学ほんじょうは、本市と近隣町村教育委員会が主催しているプログラムで、小学生5・6年生に向けて色々な分野のオムニバス形式の講座を年間10回ほど開催します。本院学院はこれらのプログラムに講師派遣・場所の提供において協力を行っています。

◆ほんじょうFMパーソナリティ
本院学院は2021年より地域ラジオ局であるほんじょうFMのパーソナリティを務めています。毎週木曜日17:00～17:45の時間枠を「くまじ」という番組名で学院生が担当しています(試験期間や行事日は中止)。周波数89.3MHzです。エフエムプラプラというアプリを入れるとどこでも聞けることができます。

◆グローバルキャンプinかみかわ(8月19日～20日)
グローバルキャンプinかみかわは、本市に隣接する神川町が、町内の子・中学生に国際交流と英語実践の機会を与えることを目的として実施しているプログラムです。早稲田大学国際教養大学の留学生4名と学院生(3年秋山友花・山谷凛咲・山下凛花・向川綾音・角田優、2年野崎葵、1年川口紗世・大森灯)がプログラムの企画および、講師とファシリテーターを務め、留学生と学院生は本庄セミナーハウスに宿泊する、一泊二日のプログラムです。

◆高等学院・大学との連携プログラム
学院生のためのビジネス構築講座「コミュニティを超えて繋ぐていくには」
WASS (Waseda Affiliated Schools' Summit)は両高等学院が早稲田大学を理解と学院生活充実を目的とする、両学院連携プロジェクト活動です。大学進学後、両学院生が早稲田大学の中核として活躍できることを期待しています。3月10日(日)早稲田大学8号館309教室で、標記のイベントを開催しました。

◆地域創生アイデア創出プログラム2024
8月17日(土)18日(日)の一泊二日で早稲田大学本院セミナーハウスを会場として、標記プログラムが開催されました。今年度は、早稲田大学の附属系属7校すべてから生徒が参加し(本院学院からは3年秋山友花・山下凛花・角形綾・森川葵、2年金井彩良・小島凛太郎・金井聡哉)、早大生と6チームに分かれ、本庄市役所の指導を得ながら、本庄市の活性化プログラムを考えました。

◆Stanford d-school Workshop (10月16日)
10月16日(水)15時～18時、美術室を主会場に、アメリカStanford大学d-schoolの講師3名をお招きし、デザイン思考を学ぶワークショップを開催しました(主催 早稲田大学W-EDGEユース・イノベーター(WEXY)育成プログラム、早稲田大学アントレプレナーシップセンター、後援 一般財団法人三菱いしご成財財団)。デザイン思考とは解決困難な課題を解決に近づく思考方法のことです。Stanford大学d-schoolはその世界的な中心といわれています。早稲田実業から6名、ちょうど来校しているタイの姉妹校MWITの生徒10名、留学生3名に学院生を合わせ33名が参加しました。

◆ソフトテニス部(男子)
インターハイ県予選 個人戦の部(6月8日@狭山智光山公園) ベスト64 石島湧太(2E)・鈴木吟乾(1F)ペア
インターハイ県予選 団体戦の部(6月12日@熊谷さくら運動公園) 1回戦 1～②熊谷

◆秋山友花さん(3年)、早稲田大学附属系属校ビジネスプラン・コンテストで最優秀賞受賞
8月に附属系属校を対象に本コンテストを開催いたしました(協力 日本政策金融公庫)。3年秋山友花さんがプラン名「やってみたい! 商店街」で最優秀賞(1本)を受賞しました。



◆河川研究班の活動
2009年より本院学院は本庄市内の河川環境保護活動に取り組んでいます。
・藤田小との合同河川調査
5月に小山川、10月に元小山川の合同河川調査を実施しました。

◆第16回いい川・いい川づくりワークショップin白山手取川で準グランプリ獲得!
いい川・いい川づくりワークショップは、日本全国で水環境保護活動に取り組んでいる個人団体が活動を報告し、互いに情報交換をし、啓蒙し合うことを目的に開催されているイベントで、今回で16回目になります。今年は、石川県白山市金城大学を会場に開催されました。本院学院河川研究班の活動は、小学生たちとの2009年から続く河川調査の長い継続、本庄市内河川に住む生物図鑑の作成と頒布、市民シンポジウム開催による広報活動の継続と4名の生徒(3年伊藤有香・谷貝莉奈・松本莉子・内藤千品)のプレゼン力が評価され準グランプリを獲得しました。



生徒達の活躍

◆卓球部
・学校総合体育大会卓球競技埼玉県大会
(6月7日～9日 上尾運動公園体育館)
女子シングルス 高橋侑那(2E) ベスト16
女子ダブルス 村田悠夢(3E)・高橋侑那(2E) ベスト32
・女子学校対抗 ベスト16
古澤結奈(3B)・村田悠夢(3E)・高橋侑那(3H)
高橋侑那(2E)・柴崎 葵(1H)・大森 灯(1H)
・国民スポーツ大会卓球競技埼玉県予選会
(6月21日 ウイングハット春日部)
女子シングルス 高橋侑那(2E) ベスト32
男子シングルス 金田篤典(1D) ベスト64
・埼玉県ジュニア高等学校学年別強化卓球大会
(8月22日 ウイングハット春日部)
2年女子シングルス 高橋侑那(2E) 第3位
1年女子シングルス 柴崎 葵(1H) ベスト16
1年男子シングルス 金田篤典(1D) ベスト16
・全日本卓球選手権大会(ジュニアの部)埼玉県予選会
(9月8日 ウイングハット春日部)
ジュニア女子シングルス 高橋侑那(2E) ベスト32
柴崎 葵(1H) ベスト64
金田篤典(1D) ベスト64
ジュニア男子シングルス 金田篤典(1D) ベスト64
・高体連北都支部卓球大会
(9月24・25日くまがやドーム体育館)
女子シングルス 高橋侑那(2E) 準優勝
柴崎 葵(1H) ベスト8
女子学校対抗 準優勝
高橋侑那(2E)・朝比奈杏(1A)・渡邊莉央(1D)
山中鈴音(1G)・大森 灯(1H)・柴崎 葵(1H)

◆硬式野球部
・夏季選手権大会
2回戦 7月14日(日) (@UDトラックス上尾球場)
対 川口高校 2-4
・秋季大会
北都地区予選 代表決定戦 9月7日(日) (@北本総合公園野球場)
対 鴻巣高校 10-3 (8回c)
・県大会
1回戦 9月19日(木) (@レジスタ大宮球場)
対 春日部工業高校 7-0 (7回c)
2回戦 9月21日(土) (@レジスタ大宮球場)
対 国際学院高校 7-0 (8回c)
3回戦 9月23日(月) (@越谷市民球場)
対 坂戸高校 2-4 (延長10回)
秋季大会では県ベスト16となりました。みなさまの応援、ありがとうございました。

◆自転車部
・2024年9月8日(日)
第72回秋友宮杯埼玉県自転車道路 競争大会(秩父市特設コース)
3年生の引退レースとなる大会です。部員10名が出場し、9名が完走しました。
・2024年9月28日(土)
高体連県新人大会トラックレース(大宮競輪場)
スプリント 7位 太田昌宏(1H)
チーム・スプリント 6位
野尻煌貴(1B)・渡辺泰士(1B)・太田昌宏(1H)

◆ソフトテニス部(女子)
・インターハイ県予選会 個人戦の部
(6月8日@熊谷さくら運動公園)
ベスト16 新島優芽(2G)・杉崎里奈(3H)ペア
ベスト32 皆上 二(2F)・永田 在(1H)ペア
・インターハイ県予選会
団体戦の部
(6月11日@狭山智光山公園)
第3位 杉崎・向川綾音(3A)・本郷咲希(3D)・
新島・皆上・二宮萌未(2C)・野崎葵(2A)・永田
・埼玉県選手権大会(7月20日@熊谷さくら)
ベスト8 皆上・永田ペア
ベスト16 新島・杉崎ペア
・県新人選手権大会(8月20日@東松山庭球場)
優勝 皆上・永田ペア
・新入大会北都支部予選 個人戦の部
(9月13日@東松山)
第1位 皆上・永田ペア
ベスト8 新島・野崎ペア
※岡ペアは県大会出場権を獲得
・新入大会北都支部予選 団体戦の部
(9月17日@東松山)
第3位 皆上・新島・野崎・二宮・大塚麗(2F)
永田・長房結花(1E)・竹之内優花(1F)
※県大会出場権を獲得
・新入大会県大会 個人戦の部(11月10日@狭山智光山)
ベスト16 皆上・永田ペア
※埼玉県選手権大会(高校シングルの部)などへの出場権を獲得
・新入大会県大会 団体戦の部(11月14日@熊谷さくら)
ベスト16
※県インドア大会への出場権を獲得

◆ソフトテニス部(男子)
・インターハイ県予選会 個人戦の部(6月8日@狭山智光山公園)
ベスト64 石島湧太(2E)・鈴木吟乾(1F)ペア
・インターハイ県予選会 団体戦の部(6月12日@熊谷さくら運動公園)
1回戦 1～②熊谷
・埼玉県選手権大会(7月20日@東松山庭球場)
ベスト64 鈴木・関 春弥(2F)ペア
・県新人選手権大会(8月19日@熊谷さくら)
第3位 鈴木・関ペア
ベスト16 石島・飯塚陽介(2F)ペア
・新入大会北都支部予選 個人戦の部

(9月13日@熊谷さくら)
第3位 鈴木・関ペア
※県大会出場権を獲得
・新入大会北都支部予選 団体戦の部
(9月16日@熊谷さくら)
1回戦 ②-1 深谷商
2回戦 1-② 本庄一
敗者復活1次 1-②本庄 敗者復活2次 ②-0 熊谷工
※県大会出場権を獲得
・新入大会県大会 個人戦の部(11月9日@熊谷さくら)
ベスト32 鈴木・関ペア
・新入大会県大会 団体戦の部(11月14日@狭山智光山)
1回戦 1-② 浦和南

◆サッカー部
・令和6年度高校総体サッカー埼玉県予選:
【1回戦】6月1日(土)@本庄東高校
対 久喜北陽高校 3-1 勝利
【2回戦】6月2日(日)@浦和学院高校
対 埼玉栄高校 1-3 敗退
【得点者: 星野(3年)】
・第103回全国高校サッカー選手権埼玉県2次予選:
【1回戦】10月13日(日)@西武文理高校
対 県立浦和高校 3-2 勝利
【得点者: 有友(3年)・坂谷(3年)・星野(3年)】
【2回戦】10月20日(日)@浦和学院高校
対 浦和学院高校 0-3 敗退
・高円宮杯JFA U18サッカーリーグ埼玉2024北部1部
開催期間: 4/6～10/6 1次14試合
結果: 10勝4分 リーク優勝
※来年度、県3部リーグへ昇格

◆硬式テニス部(男子)
・埼玉県新人大会 北都地区予選(9月6日・7日、県大会出場分)
男子シングルス 2位 沼田悠太郎
3位 矢野 優考 17位 中田 琉生
男子ダブルス 3位 沼田・矢野 4位 中田・石川
女子ダブルス 4位 手塚・村松
・埼玉県高等学校新人大会 個人(9月28日・9月29日)
男子シングルス ベスト16 沼田 悠太郎
ベスト32 矢野 優考
ベスト64 中田 琉生
男子ダブルス ベスト16 沼田・矢野
女子ダブルス ベスト32 手塚・村松
・埼玉県高等学校新人大会 団体(10月26日)
男子 第5位

◆バドミントン部
・新入大会北都支部予選会(個人戦) (8月16～18日)
男子シングルス 4位 宮内
女子シングルス 14位 保戸塚
男子ダブルス 3位 宮内・小寺
・新入大会北都支部予選会(団体戦) (9月6・9日)
男子団体 4位 女子団体 8位

◆書道部
◎第17回全国高等学校書道パフォーマンス選手権大会
「書道パフォーマンス甲子園」出場
◎第62回埼玉県硬筆中央展覧会
★特選賞
2E 高橋 侑那 2F 須藤 佑理 1H 柴田 麻鈴
★優良賞
1A 小林 凛桜
◆ワンダーフォーゲル部
日帰りで定例山行と夏山・秋山合宿を中心に、部員30名で活動しています。例年、定例山行と秋山合宿は、関東山地での日帰りおよび1泊2日とし、夏山合宿は主に北アルプスに2泊3日の縦走登山に出かけます。日帰りで5～6時間は歩く健脚コースを設定しています。部員数が多いため、今年度も夏山合宿を3コースに分けて実施しました。

今年度これまでに実施した山行は、次の通りです。他の公認団体との兼部や途中からの入部も可能です。仲間と山を歩きながら、気分をリフレッシュしてみませんか?
4/3 天鏡山・大高山
4/28 新歎山行(武甲山)
5/26 高水三山・棒ノ嶺
6/16 大霧山・堂平山
7/22～24 夏山合宿A(尾瀬・至仏山)
8/7～9 夏山合宿B(北ア・白馬岳)
8/20～22 夏山合宿C(雲ヶ・北岳)
9/22～23 秋山合宿(雲取山)
10/13 鍾鐘堂山・陣見山

◆囲碁将棋部
8月1日、2日に岐阜県高山市で行われた第48回全国高等学校総合文化祭 将棋部門大会において、3年此本が男子個人戦ベスト32となり、1年横村が女子個人戦で優勝しました!

◆女子バスケットボール部
・高校総体北都支部予選
1回戦 6月4日 ×早大本庄 50-59 秩父
・県北選手権大会 7位 優秀選手賞 佐々木夏帆
1回戦 8月17日 ○早大本庄 95-27 深谷
2回戦 8月18日 ○早大本庄 77-59 熊谷農業
3回戦 8月21日 ×早大本庄 55-68 秩父
順位決定 8月22日 ×早大本庄 45-75 深谷第一

◆陸上部
多くの選手が県大会を勝ち抜き、関東大会、全国大会に出場し、入賞しています。
佐藤那々子(1)は走り高跳びで全国インターハイ5位、U18日本選手権2位に入賞しました。
松永成美(3)はやり投げで3年連続インターハイ出場の大快挙を成し遂げました。
・全国高校総体 北関東地区予選会 東京都駒沢(6月14～17日)
男子 200m 森 優太(3) 7位 22.10
走幅跳 ★佐藤 大地(2) 5位 7m18
4X100mR ★早大本庄(石原 原田 森 谷塚) 6位 41.22
4X400mR 早大本庄(森 東城 竹島 澤田) 7位 3:19.22
女子 やり投 ★松永 成美(3) 4位 42m29
走高跳 ★佐藤那々子(1) 3位 1m70
★印は全国インターハイ出場

・全国インターハイ 福岡県博多の森(7月27～8月1日)
女子 走高跳 佐藤那々子(1) 5位 1m70
埼玉県新人陸上競技大会(9月27～29日)
男子 100m ★原田 勇吹(2) 優勝 10.88
400m 東城 諒汰(2) 8位 52.47
110H 松本 龍児(2) 8位 15.95
棒高跳 竹島 唯翔(1) 3位 4m40
4X400mR ★早大本庄(渡辺 東城 森田 竹島) 2位 3:20.98
やり投げ ★岡山 龍一(2) 4位 48m94
杉山 蔭(2) 6位 47m82
女子 100m ★渡辺 幸穂(2) 4位 12.47
400H 矢島 更紗(1) 8位 69.03
走高跳 佐藤那々子(1) 優勝 1m67
走幅跳 ★伊藤 和奏(2) 2位 5m64
4X100mR 早大本庄(翁井 渡辺 伊藤 矢島) 4位 48.22
★印は関東新人大会出場
・関東新人大会 栃木県宇都宮市(10月19～20日)
男子 やり投げ 岡山 龍一(2) 7位 52m58
女子 走幅跳 伊藤 和奏(2) 3位 5m52
・ジュニアオリンピックカップU18日本選手権 三重県伊勢市(10月19日)
女子 走高跳 佐藤那々子(1) 2位 1m65

